

20008

下肢慢性完全閉塞病変に対する Crosser system の使用経験

【背景】末梢動脈疾患 (PAD) において、特に下肢慢性完全閉塞 (CTO) や高度石灰化病変では、下肢血管内治療 (EVT) に難渋する事が多い。これに対して 2014 年 4 月より下肢領域において、BARD 社の Crosser system が使用可能となり、多くの CTO 症例で活用されてきている。【目的】今回当院では CTO 3 症例に対して Crosser system を併用し EVT を施行したため、その使用経験を報告する。【対象】2015 年 4 月から 6 月までに当院で Crosser system を併用し EVT を施行した浅大腿動脈 (SFA) の CTO 3 症例、何れも跛行症例である。【症例 1】68 歳男性、左浅大腿動脈完全閉塞。右鼠径よりクロスオーバーで順向性アプローチ、ワイヤー先行にて Crosser system 併用。【症例 2】81 歳男性、左浅大腿動脈完全閉塞。右鼠径よりクロスオーバーで順向性アプローチ、ワイヤー先行にて Crosser system 併用。【症例 3】68 歳女性、左浅大腿動脈完全閉塞。左鼠径より順向性アプローチ、Crosser system 単独使用。【結果】全例とも再開通に成功し、合併症として血管穿孔や末梢塞栓は発生しなかった。【まとめ】CTO に対する EVT において、Crosser system の併用は有用であった。しかし、同時に合併症のリスクに対して注意が必要であり、医師のみならず我々コメディカルも操作方法やデバイスの特性を理解し、緊急時の対処法などを共有することが重要である。